

香川大瀬戸内圏研究センターが里海セミナー

香川大学瀬戸内圏研究センターは、第3回里海セミナーを去る2月19日に開催した。写真Ⅱ。同センターでは、平成26年に「豊かな海の実現を目指して」、27年には「魚食文化を考える」をテーマに里海セミナーを実施しており、今年度は『生鮮魚介類の流通現場を理解する』と題して、流通の観点から魚食文化について考察を深めた。

セミナーでははじめに、多田瀬戸内圏研究センター長が研究の進捗状況、センターの活動内容について説明。基調講演では、東信水産㈱代表取締役社長と実践女子大の織茂講師から消費動向の変化に伴う水産物に必要な生活提案が紹介された。

また講演後の事例報告では、①香川県農政水産部水産課の北尾氏から香川県水産業の現状とともに、今後の方針が示され、②香川県かん水養殖漁業協同組合代表理事組合長、庵治漁業協同組合長の嶋野氏からは香川県内から出荷されるオリーブハマチに関する説明が行われた。さらに、③香川県魚市場㈱代表取

締役社長の山本氏からは、香川県内における生鮮魚介類マーケティングの現状が報告された。

また、発表者がパネルリストとして、会場からの質疑を受けながらパネルディスカッションを行った。

会場には市民も含めて約50名が参加。熱心に講演に聞き入るとともに、活発な意見交換などが行われた。

